

令和8年度

木頭小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践。
○話し合い活動を充実させ、自分の考えについて、根拠を明らかにしながら表現できる児童の育成。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

校内研修での協議を通して組織的・計画的に、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○素直な態度で授業に取り組んでいる。</p> <p>○本が好きな児童が多く、休み時間など時間を見つけて進んで読書をしている。</p> <p>●基礎的・基本的な知識・技能が十分定着しないまま、学年が上がる児童がいる。</p> <p>●既習の知識・技能が定着している児童と定着していない児童の二極化が見られる。</p>	<p>・一人一人が自身の学習課題を把握し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>・基礎的・基本的な知識・技能を実生活の中でも活用できる。</p> <p>・単元や学年全体や他教科等との関連を意識しながら知識・技能を能動的に習得する。</p>	<p>・小学校への入門期から、学習に必要な物をそろえたり、机上の使い方など自らの学習環境を整える習慣を身につけさせる。</p> <p>・複式学習指導において、一単位時間の流れ(課題・めあて、自力解決、話し合い、ふりかえり等)を明確にし、系統的に取り組む。</p> <p>・漢字と計算を確実に習得できるよう、朝の活動の時間にドリル学習を一斉に行う。</p> <p>・学校図書館の充実と読書力を育む質の高い読書活動に取り組む。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○積極的に自分の思いや考えを表現することができる。</p> <p>○自ら考え行動できる児童が多い。</p> <p>●相手が伝えたいことを理解し、自分の意見や考えを整理して伝えることが苦手な児童がいる。</p>	<p>・豊かな語彙を獲得しながら聞かれていることを正しくとらえ、自分の意見や考えを表現することができる。</p> <p>・主体的な思考・判断・表現の中で自らの知識・技能が更新することができる。</p>	<p>・根拠に基づいて自分の意見を論理的に話したり、書いたりする活動を授業の中で意図的に行う。</p> <p>・学校行事や児童会活動で自己有用感を育み、自他の思いや考えを伝え合うことのよさを体感させる。</p> <p>・一人一人の思考・判断・表現活動と話し合いなどの対話による知識・技能の習得が展開される授業改善に取り組む。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題に対しては、素直に一生懸命取り組むことができる。</p> <p>○追究したり探求したりする楽しさに気付きつつある。</p> <p>●自分で課題を見付け、課題解決に向けて取り組むことが苦手である。</p> <p>●難しい問題に対してすぐにあきらめる児童がいる。</p>	<p>・自らの学習を調整しながら、主体的に取り組むことができる。</p> <p>・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら「深い学び」につながる習得・活用・探求ができる。</p>	<p>・授業の最後にふりかえりを行い、各教科の見方・考え方のよさを実感したり、次の学習への見通しをもったりして、学習したことの進化・発展を図る。</p> <p>・家庭学習の習慣(時間、学習環境の改善、自主学習ノート)に家庭と連携し取り組む。</p> <p>・発達段階に応じて、学習計画を立て、取組状況を自己評価できる力を育て、中学校につなげる。</p> <p>・小中一貫校のよさをいかし、9年間で「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」について校内研修などで共有する。</p>			